



関東中央病院 Memories 思い出のアルバム No.12

このシリーズは、平成5年(1993年)1月から、「緑のひろば」で12回にわたって連載された記事の再掲載です。



▲昭和34年まだ畑に囲まれてました。(上が北)



◀現在の病院全景(右上が北)



▲昭和48年当時の航空写真(右下が北)

特に世田谷通りを挟んだ北側の丘は一面の畑で、農家が点在しています。昭和の初め、この辺りが「玉川村」だったことが納得できます。玉川村が世田谷町・駒沢町・松沢村とともに東京市世田谷区として合併したのは昭和7年でした。(開院は昭和28年)。

また、世田谷通りは砂利の凸凹道で病院の前が現在のように直線の道路になったのは、東京オリンピックが開かれた昭和39年頃でした。当院の建物も開院当時は左上の写真の右側の木造平屋建ての部分だけでした。各写真の違いをご覧ください。

さて、開院40周年を記念して掲載してまいりました「関東中央病院 思い出のアルバム」は今回第12回で最終回といたします。

なお、関東中央病院に関する貴重な写真・資料をお持ちの方は編集部までご一報ください。今後の資料にしたいと思います。

今回の「思い出のアルバム」は空から見た関東中央病院です。同じ方向からの写真ではありませんが、病院の変遷が分かります。

上の写真を見ると畑の多さにビックリします。

(平成5年12月号掲載)